

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	情報処理学科	夜・通信	230時間 12単位	160時間 6単位	
	情報システム学科 (アプリエンジニア専攻)	夜・通信	295時間 14単位	240時間 9単位	
	情報システム学科 (高度情報システム専攻)	夜・通信	310時間 14単位	240時間 9単位	
	情報システム学科 (AI専攻)	夜・通信	310時間 14単位	240時間 9単位	
	情報システム学科 (ゲーム専攻)	夜・通信	300時間 14単位	240時間 9単位	
	情報システム学科 (メディカルSE専攻)	夜・通信	270時間 14単位	240時間 9単位	
	情報システム学科 (3DCAD専攻)	夜・通信	281時間 13単位	240時間 9単位	
		夜・通信			
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考) 情報システム学科の「アプリエンジニア専攻」は、「高度情報システム専攻」へ専攻名を変更し、3年生のみが在籍					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

IVYのホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8647
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

希望者には学校備付けの役員名簿を閲覧させる

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	高等学校 校長	令和3年4月1日～ 令和7年3月31日	教育的助言
非常勤	元職員	令和4年6月1日～ 令和8年5月31日	運営的助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	IVY 大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○教育課程(カリキュラム)の編成について</p> <p>実施する授業科目、及びその講座内容については、各学科職員会議にて、講座の実施状況や学生アンケートに基づき改善検討を行い、新年度教育課程の策定を行う。策定された教育課程に基づいて授業計画を立てる。一部学科については、「教育課程編成委員会」を実施し、その討議内容に基づいて、教育課程の策定を行う。</p> <p>授業計画書(シラバス)については、「IVYシラバス作成ガイドライン」に従って、各教科担当教員が新年度前に完成させる。様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法などを統一している。</p> <p>また、授業計画書(シラバス)は、新年度の入学式後に、学生に対してホームページ上で公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	IVYのホームページで公開 https://www.ivy.ac.jp/?page_id=7693
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>○授業科目に対する成績評価</p> <p>科目毎の評価方法は、授業計画書(シラバス)に記載した評価方法に基づいて行う。また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じた総合評価とする。</p> <p>講義・演習科目については、講座終了時に期末試験を実施する。その試験結果及び学修状況(履修状況やレポート提出状況)等に基づいて評価を行う。</p> <p>また、実習実技科目においては、実習成果物及びその提出状況・実技試験及び学修状況などのいずれか、又はこれらを総合的に判断して評価を行う。実習成果物で未提出のものがあれば、評価はしない。</p> <p>評価については、特に定めがない場合、100点を満点として、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)の区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>○履修認定について</p> <p>当該科目の必要授業時間数に出席し、期末試験に合格することをもって、当該科目を履修したとみなす。ただし、実習系の教科目については、学期中の課題の提出率が100%でかつ、担当教員が合格と認めたものは期末試験に合格したとみなす。</p> <p>尚、補習等において追加課題などの措置を実施し、条件を満たした時点で評価・履修認定を行う。また、補習等を実施しても、条件を満たさない場合は不合格とし、履修認定はされない。</p> <p>この内容については、学生便覧に記載するとともに、入学時のガイダンスにて説明を行う。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
 成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として、GPA (Grade Point Average : 成績指標値) を用いる。
 GPAは、成績評価のうち、Sは4点、Aは3点、Bは2点、Cは1点、Dは0点 をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、履修科目の総単位数で除して算出する。
 GPAの学生及び保証人への通知は、学期GPA及び通算GPAを各学期における成績と併せて通知する。ただし、学生が保証人の同意を得て保証人への成績通知を不要とする場合には、この限りでない。
 本学卒業時の通算 GPA は、成績原簿に記録するものとする。
 また、同様の内容を学生便覧に記載し、学生への説明会を行うとともにホームページにて公開する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	学生便覧に記載するとともに、ホームページで公開する。 https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8082
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)
 I V Yの教育目標は学生便覧にも記載しているように、次のようになっている。
 ○教育目標
 1. 専門的最高の知識・技術を身につけること。
 2. 専門的資格を取得すること。
 3. 希望にかなった就職をすること。
 4. 社会人としてのマナーを身につけること。
 尚、専門的技術については、教育課程を展開する中で達成できるように指導し、社会性の側面については、日々の生活の中で達成できるように指導している。
 以上のことを踏まえた卒業要件を設定し、卒業判定については以下のように規定を定め適切に実施している。
 ○卒業認定要件
 学則に定めるように、以下の条件を満たした者を課程が修了したとして卒業認定する。
 ①3年制においては、2400時間以上、2年制においては1700時間以上履修し、かつ授業科目の成績表に基づいて、学校長が認定した者
 ②所定の修業年限以上在学し、所定の納付金が納められていること。
 ○卒業認定手続き
 担任が卒業要件の充足状況を確認し、卒業判定会議において協議し、学校長が認定を行う。卒業要件を満たさない者については、補習等により要件が満たされた時点で再判定し、学校長が認定を行う。
 ○教育目標及び卒業認定基準の公表
 学生便覧に記載し、全学生に配布する。また、入学時にガイダンスにて、新入生に対して説明を行う。

卒業の認定に関する方針の公表方法	学生便覧と I V Yのホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8085
------------------	---

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	希望者には貸借対照表の写しを配付する
収支計算書又は損益計算書	https://www.ivy.ac.jp/?page_id=6585
財産目録	希望者には財産目録の写しを配付する
事業報告書	希望者には事業報告書の写しを配付する
監事による監査報告（書）	希望者には監査報告の写しを配付する

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報処理科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間 ／62 単位	180 単位時間/ 11 単位	980 単位時間/ 47 単位	540 単位時間/ 16 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			1700 単位時間／74 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		26 人	0 人	9 人	12 人	21 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

1年次は、コンピュータやネットワーク、セキュリティなどのIT技術の基礎教育を行う。その中で、情報処理技術者の国家試験を受験する。

2年次以降は、コンピュータシステムの開発実習を通して、プログラマーやシステムエンジニアとしての必要な技術力を育成する。最後に、実践力を養うために、卒業研究として、グループでの作品を作り発表会を行う。ここで、コミュニケーション力とプログラミング力をアップする。

成績評価の基準・方法

（概要）

①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験（受験条件：出席率80%以上）に合格することをもって科目を履修したとみなす。

②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S～Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C（合格）の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D（不合格）となる。

③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業認定基準：

①受講授業時間数が1700時間以上であり、期末試験に合格すること。

②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。

以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。

進級基準：

年間授業時数800時間以上履修しており、期末試験に合格すること。

尚、進級基準が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

学修支援等

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び学修支援、進路支援等を個別で行っている。

○個別面談の実施。

出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。

尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。

また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・A0 入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次に5万円免除する。
- ・推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除する。
- ・指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除する。
- ・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を1年次に5万円免除する。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹に IVY 卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポート等国家資格試験の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費一部免除
- ・大学等新卒者補助金制度：大学等（大学・短大・専門学校）卒業後2年以内、または卒業見込みの者で入学願書提出時の申請により、学費を1年次10万円免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	12人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 県内外のIT企業、システム開発会社、システムインテグレータ、製造業			
(就職指導内容) マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応3者面談会、受験時面接指導、キャリア教育(志望動機、履歴書)、就職対策(SPI, 一般常識)、就職報告会			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者能力認定試験(サーティファイ)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	1人	3.6%
(中途退学の主な理由) 生活の乱れによる出席率および学修意欲の低下。補講期間内に全て履修できず認定されなかったため。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	情報システム学科 (アプリケーション専攻)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2550 単位時間 /93 単位	220 単位時間/ 13 単位	1110 単位時間/ 53 単位	1269 単位時間/ 40 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			2599 単位時間/106 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
225 人		8 人 (学科全体 148 人)	0 人	9 人	12 人	21 人	

(※現在 3年生のみ在学中)

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者(システムエンジニア・ゲームプログラマ・A I 技術者・医療SE・CAD技術者等)を3年間で育成する。</p> <p>入学時に専攻を選択することにより、1年次は、IT技術(コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等)の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びCADオペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。IT技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。</p> <p>2年次は更にゲーム・AI・医療情報の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。</p> <p>3年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験(受験条件:出席率80%以上)に合格することをもって科目を履修したとみなす。</p> <p>②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C(合格)の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D(不合格)となる。</p> <p>③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>卒業認定基準:</p> <p>①3年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。</p> <p>②受講授業時間数が2550時間以上で、取得単位数が93単位以上であること。</p> <p>③納付金を完納すること。</p> <p>以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。</p> <p>進級基準:</p> <p>①全日の出席率が80%以上であること。</p> <p>②年間取得単位数が31単位以上であること。</p>

以上の2点を満たしたものは進級できる。
尚、進級基準が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○個別面談の実施。

出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。

尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。

また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・A0 入学生支援：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次に10万円免除、2年次に10万円免除、3年次5万円免除し、総額25万円免除する。
- ・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を1年次に10万円免除、2年次に10万円免除、3年次に5万円免除し、総額25万円免除する。
- ・指定校特待生A：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次に10万円免除、2年次に10万円免除、3年次5万円免除し、総額25万円免除する。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込の者）、入学願書提出時の申請により、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に、入学するまでに申請、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・IVY 経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等)
システムエンジニア

(就職指導内容)
マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応3者面談会、受験時面接指導
キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI、一般常識）、就職報告会

(主な学修成果（資格・検定等）)
基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者能力認定試験（サーティファイ）

(備考)（任意記載事項）
開設3年目のため、卒業生はいません。また、この専攻は3年生のみです。
高度情報システム専攻へ名称変更しました。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	情報システム学科 (高度情報システム専攻)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2400 単位時間 /93 単位	200 単位時間/ 12 単位	1180 単位時間/ 57 単位	1150 単位時間/ 36 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			2530 単位時間/105 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
225 人		18 人 (学科全体 148 人)	0 人	9 人	12 人	21 人	

(※現在 1 年生、2 年生が在学中)

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>概要)</p> <p>各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者(システムエンジニア・ゲームプログラマ・A I 技術者・医療SE・CAD技術者等)を3年間で育成する。</p> <p>入学時に専攻を選択することにより、1年次は、IT技術(コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等)の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びCADオペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。IT技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。</p> <p>2年次は更にゲーム・AI・医療情報・設計の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。</p> <p>3年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験(受験条件:出席率80%以上)に合格することをもって科目を履修したとみなす。</p> <p>②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C(合格)の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D(不合格)となる。</p> <p>③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>卒業認定基準:</p> <p>①授業時間数が2400時間以上であり、期末試験に合格すること。</p> <p>②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。</p> <p>以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。</p> <p>進級基準:</p> <p>年間授業時数800時間以上履修しており、期末試験に合格すること。</p> <p>尚、進級基準が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。</p>

<p>学修支援等</p> <p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。</p> <p>○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A0 入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除する。 ・指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在學生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。 ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポート等国家資格試験の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費一部免除 ・大学等新卒者補助金制度：大学等（大学・短大・専門学校）卒業後2年以内、または卒業見込みの者で入学願書提出時の申請により、学費を1年次10万円免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応3者面談会、受験時面接指導 キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI, 一般常識）、就職報告会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者能力認定試験（サーティファイ）			
（備考）（任意記載事項） 開設2年目のため、卒業生はいません。現在1年生、2年生が在籍しています。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
16人	2人	12.5%

(中途退学の主な理由)

- ・ 家族の協力が得られない環境による登校継続困難
- ・ 学業成績が著しく不良なため

(中退防止・中退者支援のための取組)

随時、担任による２者面談、３者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	情報システム学科 (A Iシステム専攻)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2400 単位時間 ／93 単位	200 単位時間/ 12 単位	1180 単位時間/ 57 単位	1150 単位時間/ 36 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			2530 単位時間/105 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
225 人		27 人 (学科全体 148 人)	0 人	9 人	12 人	21 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
概要) 各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者(システムエンジニア・ゲームプログラマ・A I技術者・医療SE・CAD技術者等)を3年間で育成する。 入学時に専攻を選択することにより、1年次は、IT技術(コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等)の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びCADオペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。IT技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。 2年次は更にゲーム・A I・医療情報・設計の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。 3年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。
成績評価の基準・方法
(概要) ①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験(受験条件:出席率80%以上)に合格することをもって科目を履修したとみなす。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C(合格)の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D(不合格)となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定基準: ①授業時間数が2400時間以上であり、期末試験に合格すること。 ②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準: 年間授業時数800時間以上履修しており、期末試験に合格すること。 尚、進級基準が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

<p>学修支援等</p> <p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。</p> <p>○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A0 入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除する。 ・指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在學生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。 ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポート等国家資格試験の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費一部免除 ・大学等新卒者補助金制度：大学等（大学・短大・専門学校）卒業後2年以内、または卒業見込みの者で入学願書提出時の申請により、学費を1年次10万円免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応3者面談会、受験時面接指導 キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI, 一般常識）、就職報告会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者能力認定試験（サーティファイ）			
（備考）（任意記載事項） 開設3年目のため、卒業生はいません。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20人	0人	0%

(中途退学の主な理由)

(中退防止・中退者支援のための取組)

随時、担任による２者面談、３者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	情報システム学科 (ゲーム専攻)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2400 単位時間 /93 単位	180 単位時間/ 11 単位	810 単位時間/ 39 単位	1526 単位時間/ 50 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			2516 単位時間/100 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
225 人	63 人 (学科全体 148 人)	0 人	9 人	12 人	21 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
概要) 各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者(システムエンジニア・ゲームプログラマ・AI 技術者・医療SE・CAD技術者等)を3年間で育成する。 入学時に専攻を選択することにより、1年次は、IT技術(コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等)の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びCADオペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。IT技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。 2年次は更にゲーム・AI・医療情報・設計の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。 3年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。
成績評価の基準・方法
(概要) ①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験(受験条件:出席率80%以上)に合格することをもって科目を履修したとみなす。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C(合格)の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D(不合格)となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定基準: ①授業時間数が2400時間以上であり、期末試験に合格すること。 ②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準: 年間授業時数800時間以上履修しており、期末試験に合格すること。 尚、進級基準が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

<p>学修支援等</p> <p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。</p> <p>○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A0 入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除する。 ・指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在學生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。 ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポート等国家資格試験の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費一部免除 ・大学等新卒者補助金制度：大学等（大学・短大・専門学校）卒業後2年以内、または卒業見込みの者で入学願書提出時の申請により、学費を1年次10万円免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応3者面談会、受験時面接指導 キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI, 一般常識）、就職報告会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、情報処理技術者能力認定試験（サーティファイ）			
（備考）（任意記載事項） 開設3年目のため、卒業生はいません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42人	1人	2.4%

(中途退学の主な理由)

精神疾患の悪化により登校困難

(中退防止・中退者支援のための取組)

随時、担任による２者面談、３者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	情報システム学科 (メディカル SE 専攻)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2400 単位時間 /93 単位	945 単位時間/ 53 単位	1975 単位時間/ 87 単位	1320 単位時間/ 42 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			4240 単位時間/182 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
225 人		2 人 (学科全体 148 人)	0 人	9 人	12 人	21 人	

(※現在 1 年生、2 年生が在学中) (※3 年生は AI システム専攻へ移動)

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 概要) 各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者(システムエンジニア・ゲームプログラマ・AI 技術者・医療 SE・CAD 技術者等)を 3 年間で育成する。 入学時に専攻を選択することにより、1 年次は、IT 技術 (コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等) の基礎教育を行う授業と、設計や製図及び CAD オペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。IT 技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。 2 年次は更にゲーム・AI・医療情報・設計の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。 3 年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。
成績評価の基準・方法
(概要) ①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験 (受験条件: 出席率 80%以上) に合格することをもって科目を履修したとみなす。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して 5 段階(S, A, B, C, D) 評価を行う。尚、S~C は合格、D は不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C (合格) の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D (不合格) となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定基準: ①授業時間数が 2400 時間以上であり、期末試験に合格すること。 ②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準: 年間授業時数 800 時間以上履修しており、期末試験に合格すること。 尚、進級基準が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審

議し、進級を認める場合もある。
学修支援等
<p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。</p> <p>○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A0 入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除する。 ・指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。 ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポート等国家資格試験の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費一部免除 ・大学等新卒者補助金制度：大学等（大学・短大・専門学校）卒業後2年以内、または卒業見込みの者で入学願書提出時の申請により、学費を1年次10万円免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応3者面談会、受験時面接指導 キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI, 一般常識）、就職報告会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、医療情報技師能力認定試験			
（備考）（任意記載事項） 開設3年目のため、卒業生はいません。 3年生はAIシステム専攻へ移動し、現在1年生と2年生が在籍しています。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0%

(中途退学の主な理由)

(中退防止・中退者支援のための取組)

随時、担任による２者面談、３者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	情報システム学科 (3DCAD専攻)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2400 単位時間 ／93 単位	679 単位時間/ 43 単位	981 単位時間/ 45 単位	759 単位時間/ 24 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			2419 単位時間／112 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
225 人	30 人 (学科全体 148 人)	0 人	9 人	12 人	21 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者(システムエンジニア・ゲームプログラマ・AI 技術者・医療SE・CAD技術者等)を3年間で育成する。 入学時に専攻を選択することにより、1年次は、IT技術(コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等)の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びCADオペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。IT技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。 2年次は更にゲーム・AI・医療情報・設計の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。 3年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。
成績評価の基準・方法
(概要) ①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験(受験条件:出席率80%以上)に合格することをもって科目を履修したとみなす。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C(合格)の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D(不合格)となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定基準： ①授業時間数が2400時間以上であり、期末試験に合格すること。 ②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： 年間授業時数800時間以上履修しており、期末試験に合格すること。 尚、進級基準が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

<p>学修支援等</p> <p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。</p> <p>○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A0 入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除する。 ・指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在學生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。 ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポート等国家資格試験の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費一部免除 ・大学等新卒者補助金制度：大学等（大学・短大・専門学校）卒業後2年以内、または卒業見込みの者で入学願書提出時の申請により、学費を1年次10万円免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 開設3年目のため、卒業生はいません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	1人	4.5%

(中途退学の主な理由)

精神疾患の悪化による登校困難

(中退防止・中退者支援のための取組)

随時、担任による２者面談、３者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
情報処理学科	150,000円	600,000円	400,000円	
情報システム学科	150,000円	600,000円	400,000円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) IVYのホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=788		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>構成 学校関係者評価委員は、業界団体・学術関係・企業委員・卒業生からの5名で構成する。</p> <p>評価項目 学校関係者評価委員に、①教育理念・目標、②学校運営、③教育活動、④学習成果、⑤学生支援、⑥教育環境、⑦学生の受入れ募集、⑧財務、⑨法令等の遵守、⑩社会貢献・地域貢献の観点について、状況の説明や様々な取組み事項の説明と自己点検評価の説明をした後、各委員より、学校評価を提出してもらう。</p> <p>評価結果の活用 項目毎に改善策を検討し、翌年度の目標設定や取組みに反映する。 具体的には、さらなる業務の効率化や教員に対する先進的な知識・技術の研修会を設ける。また、卒業生との繋がりを強固にし、卒業後の活動の把握と支援を行うよう努力する。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
公益財団法人 研究所 理事	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	有識者 (業界団体)
国立大学 助教	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	有識者 (学術関係)
企業 代表取締役社長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業委員
企業 代表取締役社長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業委員・卒業生
企業 代表	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業委員・卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) IVYのホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=1199		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) IVYのホームページ https://www.ivy.ac.jp

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H144310000227
学校名	IVY大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		41人	40人	41人
内訳	第Ⅰ区分	27人	26人	
	第Ⅱ区分	8人	9人	
	第Ⅲ区分	6人	5人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				41人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	1人	3人
計	0人	1人	3人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。